

# ワーキンググループ活動報告

令和4年9月29日 調査研究WG

# 目次

1. 調査研究ワーキンググループの概要
2. 府民へのアンケートについて
3. 消防団員へのアンケートについて
4. 広報ターゲットの検討

# 1.調査研究WGの概要

# 調査研究WGの概要

- 活動内容（研究会からの指示事項）
  - 府民への消防団の認知度調査、消防団員への広報に関する調査
  - 上記の情報収集、分析、研究会への報告 等
  
- 組織（敬称略）
  - WG長：寺浦（消防保安課消防指導グループ長）
  - WG員：目久保（消防協会）岡山、井手、岸之上（消防指導G）
  
- 開催実績
  - 第1回～第5回  
府民及び消防団へのアンケートについて
  - 第6回～第8回  
アンケート結果の分析等

## 2.府民へのアンケートについて

# 府民へのアンケートについて

- 調査対象

国勢調査結果に基づく性・年代・居住地の割合で割り付けた18歳以上の大阪府民1,000人

- 調査期間

令和4年7月27日から7月29日

# 主な調査項目

- 日ごろから防災に関する情報収集について実施しているものを選択してください。
- あなたは、過去5年の間に、ボランティア活動に参加したことがありますか。
- あなたは、過去5年の間に、ご自身が住んでいる地域での防災イベントや避難訓練、防災訓練など地域防災活動に参加したことがありますか。
- あなたは、消防団を知っていますか。
- あなたは、消防団に入団したいと思いますか。

# 調査結果（概要）

- 消防団の認知度について
  - 消防団の認知度は約6割
  - **男性**は女性より**認知度が高い**
  - **40歳代以上**の府民は30歳代以下より**認知度が高い**
  - 職業（被雇用者や学生など）による認知度の差はない
  - **防災情報を取得している人**はそうでない人より**認知度が高い**
- 消防団への入団意向について
  - **消防団への入団意向は4.7%**
  - **消防団を認知している人**はそうでない人より**入団意向が高い**

### 3.消防団員へのアンケートについて

# 消防団員へのアンケートについて

- 調査対象

大阪府内の消防団員（災害活動支援隊を除く）

943人

- 調査期間

令和4年7月6日から8月2日

# 主な調査項目

- あなたが消防団を知ったきっかけは何ですか。
- あなたが消防団への入団を決めた要因は何ですか。
- あなたが消防団へ入団してよかったと思うことや、やりがいは何ですか。
- 消防団の認知度向上のため必要な広報活動は何だと思えますか。
- 消防団の認知度向上のためどのような内容を広報すべきだと思えますか。

# 調査結果（概要）

- 消防団を知ったきっかけ
  - 家族や友人、知人など、身近に消防団員がいた（**80.9%**）
- 消防団への入団を決めた要因
  - 消防団員や消防職員による勧誘（**57.8%**）
  - 家族や知人に勧められて（**22.5%**）
  - 消防団に入ることが地域の習慣（**11.5%**）
- 入団してよかったことややりがい
  - 多くの人と知り合うことで人脈が広がる（**24.1%**）
  - 地域に貢献できる、役に立つことができる（**23.4%**）
  - 防災に関する知識や技術が身につく（**21.8%**）
- 消防団の認知度向上のため必要な広報活動
  - 地域で活動している消防団を見てもらう（**17.8%**）
  - 市町村等の広報誌やポスターなどの紙媒体の配布や掲示（**17.0%**）
  - **YouTube**や**Twitter**、**Facebook**などの活用（**15.7%**）
- 消防団の認知度向上のためどのような内容を広報すべきか
  - 地域防災活動への住民参加の重要性
  - 地域に必要な存在であること（**23.2%**）
  - 消防団の意義や重要性（**22.4%**）

## 4. 広報ターゲットの検討

# 広報ターゲットの検討

- 府民へのアンケート結果より

- 男性は女性よりも認知度が高い
- 40歳代以上の府民は30歳代以下よりも認知度が高い

女性と30歳代以下の認知度が低い

- 防災情報を取得している人は消防団の認知度が高い
- 消防団を認知している人は消防団への入団意向が高い

防災情報の取得と消防団の認知が入団意向につながる

- 広報ターゲット（案）

- 「女性」 及び 「若年層」（30歳代以下）

- 広報戦略の方向性（案）

防災情報の取得 → 消防団の認知度向上 → 入団意向を高める